

一般社団法人 福島原発行動隊

ウォッチャー報告  
2011年11月

# 原子炉設備の状況

- 1～3号炉すべて、炉底温度100°C以下
- 燃料プール循環冷却システムすべて完成し、20°C台で安定
  - 炉内の溶融した燃料の所在・形状、冷却水との接触状態不明
  - さらに温度が低下したり、冠水した場合に局所臨界が発生する可能性を否定できない
  - 中性子計測系センサーの設置が望まれる

## 滞留水

- 滞留水は累計161,580t(月間33,440t)処理
- 水位は目標レベルを維持し、地下水への流出は防止されていると想定
  - 滞留水全体量は、豪雨や処理設備の長期停止にも耐えられるレベルといわれているが、地下水の流入により毎月数万トンずつ増加している。

## 滞留水処理、廃棄物処理

- 東芝製サリーの Cs 吸着塔槽 (ほぼ 1体/3日発生) は吸着塔管理室で保管。
- 表面 4 mSv/hr で交換。表面 100°C、内部 500°C
- 1～4 号機周辺の高線量エリア (10 mSv/hr以上) のがれき撤去ほぼ完了
- 撤去がれきは 28,000m<sup>3</sup>、うち 6,000m<sup>3</sup>のみをコンテナー保管 (900個)
  - 保管中のいずれの廃棄物も処理方法未定
  - 滞留水処理廃棄物は数10年の管理保管が必要

## モニタリング、除染

- 国が除染を実施する地域の詳細モニタリングを開始
- 「警戒区域、計画的避難区域等における除染モデル実証事業」を開始
  - 除染が本格化すると、放射性廃棄物が広範囲で大量に発生する
  - 仮・仮置き場、仮置き場、中間貯蔵所の確保と、安全な貯蔵法の順守徹底が急務となろう

# 被曝管理

- 緊急作業員の被曝は、3/4月よりは大幅減少（括弧内は8月の数値）  
9月： 作業者数： 1,130 (1,117) 人  
最大 30.81 (18.27) mSv  
平均 1.95 (1.53) mSv  
10～20 mSv: 28 (21) 名、20 mSv 以上 7 (0)名
- 被曝線量の上限を、応急作業を除き 100 mSv/yに引き下げ
  - 8月より被曝量が増加
  - 被曝作業者の最適配置の議論なし

## 中期計画

- 「循環冷却システムの安全性」について、東電が保安院へ回答
  - 「強度など問題なく安全」
- 枝野・細野両大臣が廃炉までの工程と検討すべき項目を、東電・エネ庁・保安院へ指示
  - 作業環境、滞留水処理、敷地限界線量、
  - オンサイト廃棄物管理・除染、燃料取出法
- 汚染水処理設備は「1年後をめどに設備の設置・システム構築を行う」とのみ記述